# REPORT

令和3年度 おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業 「文化芸術交流実験室」報告書



# おかやま文化芸術アソシエイツ

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、岡山県の各地域で生活する我々がその地域の文化を構成する資源(ヒト、コト、場所、お金等)についてよく知り、地域の未来を見据えた新たな価値の創造と多様なステークホルダーの共生について思考するために、平成29年度から始動した地域アーツカウンシル機能です。プログラム・コーディネーターとともに、以下のような取り組みを実施しています。

文<mark>化団体</mark>等の 活動に対する 助言、支援 県内の文化芸術資源を 発掘、再評価、 活用するための 調査事業の実施

文化活動に係る 研究会、勉強会、講演会 などの実施 東京2020オリンピック・ パラリンピック競技大会に 向けた文化プログラムの 周知、参画の促進及び beyond2020プログラム の認証

本書では、②県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の一環として実施した 「文化芸術交流実験室」のレポートと、そこから得られた情報を中心に令和3年度の取り組みを中心に報告します。

#### 実施体制

プログラム・コーディネーター 大月ヒロ子

事務局(公益社団法人岡山県文化連盟) 岡野千鶴、高田佳奈、劒持宏子

運営協力 一般社団法人ノマドプロダクション

□協力 やかげ町家交流館 谷山サロン(第 33回)、香西邸、IDEA R LAB、中華料理「廣珍」(第 34回)、蔭凉寺(第 35回)、皿井淳介 (第 32回、第 36回) ※以上、文化芸術交流実験室

住吉町の家 分福、立花容器(株)木製工場、ウームブロカントクラシキ美観地区店、NPO法人倉敷町家トラスト、高梁市図書館、シェアアトリエ海の校舎、(株 ) Logoo Design、OMS (おかやまメディアサポート)

※以上、第 19回おかやま県民文化祭 これが OKAYAMA!プログラム



#### 大月ヒロ子

(有)イデア代表取締役

一般財団法人地域創造 公立美術館活性化事業企画検討委員、キッズデザイン審査員

板橋区立美術館学芸員を経て独立。1989年、ミュージアムづくり、展覧会監修、遊びと学びの空間デザインを行う(有)イデアを設立し、数多くの公立ミュージアムの設立・運営に関わる。2013年に日本初のクリエイティブリユースの実験室IDEA R LABを倉敷市玉島オープンし、国内外でプロジェクトを展開している。「まるをさがして」他、著書多数

# 文化芸術交流実験室

岡山県内の優れた文化・芸術資源を掘り起こし、その価値を県民の皆様に再認識していただけるよう、調査研究事業を行いました。

調査の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案と、ソーシャルインクルージョンの視点に基づいたレクチャーとワークショップを定期的に開催し、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指しています。

この実験室に期待するのは、文化芸術コミュニティー内での交流はもちろん、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流に文化芸術の創造性を生かした新しい取り組みが始まり、すべての人が文化芸術を楽しむことができる岡山が生まれることです。

※第1~5回は平成29年度、第6~17回は平成30年度、第18~26回は令和元年度、第27~31回は令和2年度に実施

第32回 訪問実験室!文化芸術が生まれてくる現場vol.3「自然を取り込む」

配信開始 | 2022年 1月

開催地 | YouTube(OKAYAMA CULTURE V)

講師 | 佐藤常子(染織家)

再生数 | 96回(3月末時点)

第33回 子どもの心に届けるプログラム「音楽のアウトリーチ」

日時 | 2022年1月10日(月・祝)11:00~16:00

※新型コロナウイルス感染症対策のため2021年9月23日から振替実施

開催地 | やかげ町家交流館 谷山サロン(小田郡矢掛町矢掛2639)

講師 | 田村緑(ピアニスト)

佐々木英代(声楽家)

参加者数 | 16名

第34回 建築探偵団 其の五「地形図から読み解く円通寺西側の集落」

日時 | 2021年10月10日(日) 12:00~16:00

開催地 | 倉敷市玉島久々井地区、IDEA R LAB(倉敷市玉島中央町)

講師 | 真野洋介(東京工業大学環境・社会理工学院 准教授)

石田尚昭(建築家·公益財団法人 岡山文化芸術創造 理事)

参加者数 | 20名

第35回 町工場を音楽レーベル化する「INDUSTRIAL JP」

日時 | 2021年11月14日(日) 11:00~16:00

開催地 | 蔭凉寺(岡山市北区中央町10-28)

講師 | 下浜臨太郎(グラフィックデザイナー、アートディレクター)

篠原真祐(「蔭凉寺」僧侶、写真家、音響エンジニア)

参加者数 | 11名

第36回 訪問実験室!文化芸術が生まれてくる現場vol.4「多彩な表現に対応するための空間」

配信開始 | 2022年

開催地 | YouTube (OKAYAMA CULTURE V)

講師 | 川埜龍三(現代美術家)



映像収録・配信による訪問実験室! (第32回)





倉敷・玉島地区のフィールドワーク(第34回)



講師の映像作品紹介(第35回)

# アートマネジメントオンライン研修

文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みを実際に進めるためには、各分野に関わるマネジメントの基礎的な知識を身に付けることはもちるん、それらを生かした実践例を知ることでその生かし方を学んだり、ワークショップや実践等による身体化が欠かせません。

例年、「文化芸術交流実験室」でもアートマネジメントに関わるテーマを取り上げる回を設けるほか、文化活動に係る研究会・勉強会・講演会等を実施してきました。

本年度は、新型コロナウイルスの感染状況の拡大をうけて、オンラインを活用した研修プログラムを実施しました。

#### 結局、AIRって何なの?!

日時 | 2021年10月12日(火) 15:00~16:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ、YouTube配信

講師 | 八巻真哉 (京都府文化スポーツ部文化芸術課 / ALTERNATIVE KYOTO ディレクター)

参加者数 | 34名、オンライン49名

アーカイブ再生数 | 227回(3月末時点)

#### きく・みる・知るから始める!オンラインコンテンツの「可能性」と「作法」

日時 | 2022年3月9日(水) 19:00~21:00

開催地 | Zoom配信

講師 | 中村茜(パフォーミングアーツ・プロデューサー、株式会社プリコグ代表取締役)

水野祐(弁護士、Arts and Law理事、Creative Commons Japan理事)

ファシリテーター | 大月ヒロ子(おかやま文化芸術アソシエイツプログラム・コーディネーター) 参加者数 | 36名



「結局、AIRって何なの?!」講師の八巻さん



Zoomによるオンライン開催

#### 文化芸術交流実験室33

## 子どもの心に届けるプログラム 「音楽のアウトリーチ」

日時:2022年1月10日(月:祝)11:00~16:00

※新型コロナウイルス感染症対策のため2021年9月23日から振替実施

開催地:やかげ町家交流館 谷山サロン(小田郡矢掛町矢掛2639)

講師:田村緑(ピアニスト)、佐々木英代(声楽家)

音楽ホールや文化施設で演奏活動を行う音楽家が、地域の教育機関などに出向いて演奏活動やワークショップを行う「アウトリーチ」が盛んに行われています。この事業では、演奏家自らが子ども達に音楽だけでなく広く文化芸術への興味や楽しみを誘発するプログラムを工夫しています。

今回は、ピアニストの田村緑さんによる音楽・国語をミックス した優れたアウトリーチを、声楽家の佐々木英代さんと参加者 みんなで体験しました。

田村緑・・・・躍動感と情感溢れる演奏スタイル、在英経験を活かした独創的プログラムが注目され全国で演奏活動を展開。普及の分野では先駆者的存在。英国ギルドホール音楽院ピアノ科首席卒業、シティ大学院修了。IC・ベートーヴェン・ピアノコンクール 1位。(一財)地域創造・協力アーティスト。2016-2018いわきアリオス・アソシエイト・アーティスト。

佐々木英代…国立音楽大学声楽科卒業。日本歌曲の研究・普及をライフワークとし、1976年より近代日本音楽研究会を主催。日本のうた講座、アミカコンサートなど日本歌曲連続演奏会を開催。合唱指導も永年携わり、6ヶ国 11回の海外公演を為し、ルネスホールと共にアウトリーチ事業にも力を注ぐ。主な受賞歴に第 1回岡山県芸術文化賞、令和 2年度地域文化功労者表彰(文化庁) 受賞など。



#### レポート

今回は「やかげ町家交流館」の「谷山サロン」を会場に、大人から子どもまで幅広い年代の参加者 10数 名が集まりました。場内は天井が高く、ガラス越しに中庭を望めるなど開放感にあふれた造り。会話のは ずむ和やかなムードの中、ユニークな音楽の時間が始まりました。

まずは田村さんが、全国で開催してきた演奏活動やアウトリーチ事業を紹介。福島県いわき市三和地区で実施された「三和プロジェクト」の事例を取り上げ、小学校でのコンサートや多彩な表現、創作と絡めたワークショップなど、3年にわたるプログラムと地域交流、アウトリーチの目的や課題について深く解説しました。佐々木さんは声楽家としての歩みを振り返り、オペラや雅楽を楽しむコンサート、現在力を入れている岡山県文化連盟の事業「文化人材バンク学校出前講座」の活動を紹介しました。

昼食後は田村さんのアウトリーチプログラムを体験。「水の戯れ」などのピアノ演奏に合わせて、目を閉じたり寝転んでみたりとさまざまな聴き方で音の響きを感じました。次に「ピアノのひ・み・つ」と題して、部品の知識や音が鳴る仕組みを解説。さらにピアノ演奏は続き、参加者はクラシックの名曲に合わせて手拍子をしたりハンドベルを鳴らしたりと、五感を研ぎ澄ませながら音の体感を楽しみました。

後半は、谷川俊太郎の詩「生きる」を題材にしたワークショップ。自分にとっての「生きる」とは何かを考えて紙に書き、そこから言葉の共通点を見つけて交換し合います。さらにグループ分けしながら全員の言葉をつなぎ合わせて、一つの詩をつくりました。

次は、創作詩「生きる」に即興で音を付けることに。手や膝を叩く、紙を破る、モノをカチャカチャ鳴らす などの音を奏で、朗読と音楽が合わさったパフォーマンス作品へとステップアップ。音によって詩に表情が 加わり、みんなの心が通い合うような豊かな時間が生まれました。

ラストは、佐々木さんの歌声と田村さんのピアノ伴奏に合わせて、みんなで「ふるさと」を合唱。今回の実験室を通じてイメージした漢字を発表し、感想を述べあいました。



講師の田村さん(左)と佐々木さん(右)



寝転がって、ピアノの音色・音の世界を感じてみる



全員で創作詩「生きる」を朗読



#### やかげ町家交流館・谷山サロン

古民家再生事業の一環として 2014年に誕生。旧山陽道の宿場町として栄え、風情ある町並みを残す矢掛町の観光拠点として親しまれている。趣ある建物には特産品販売コーナーや観光情報コーナー、ランチやお茶が楽しめる「やかげ茶屋」があり、観光客や地域の人が気軽に立ち寄れる場所として人気。最大 100名収容の多目的ホール「谷山サロン」は、演奏会や講演会などのイベントや憩いのスペースとして活用されている。

http://yakagemachiya.information.jp/



#### 文化芸術人材バンク「学校出前講座~おかやま子どもみらい塾~」

岡山県文化連盟が平成 17年にスタートした事業で、文化・芸術の優れた指導者を公立小中学校などに派遣し、子どもたちに本物の文化・芸術を体験してもらうことを使命としている。文芸、音楽、美術、書道、茶道、華道、多文化理解など、さまざまな分野に約 160名の講師が登録。児童生徒からは「貴重な体験ができた」との喜びの声が寄せられ、普段指導にあたっている教員からは「講師のモデル授業を学べる」と高く評価されている。

#### ワークショップ

#### ランチ

「やかげ町家交流館」内にある「やかげ茶屋」の月替わりランチと、食後のコーヒー &お茶。豚肉の味噌漬け焼きや、矢掛町産の野菜を使ったおかずが付いて栄養満点。





ワークショップ

田村さんによる模擬アウトリーチとワークショップ

#### 13時 15分~

・ピアノ曲(曲名) を題材に、様々な側面から音楽を受動的に聴く楽しみを見つける時間

#### 【曲目】

フランス民謡: キラキラ星、ラヴェル: 水の戯れ

モーツァルト: トルコ行進曲、ホルスト: ジュピター

#### 14時~

- ・ピアノのひ・み・つ(様々な部品の紹介と楽器の構造のお話)
- ・ハンドベルを使って即興的な演奏を楽しむ

#### 14時 50分~

- ・谷川俊太郎の詩「生きる」の朗読とピアノ演奏のコラボ
- ・「自分にとって生きるとは何か?」を2つ考えて紙に書く
- ・グループ分けして言葉をつなげ、一つの詩を創作

#### 15時 25分~

- ・言葉からイメージする音を、物や体を使って表現
- ・即興で音を奏でながら詩を朗読
- ・全員で「ふるさと」を合唱し、折々に思い浮かんだ漢字を発表

16時~ 終了・解散

#### ●参加者が紡いだ詩「生きているということ」

生きているということ

それは、ピクニック 散歩にいくこと 自転車をこぐこと 水をまくこと

汗をかくこと 外の風をあびること ふかふかの土にさわること

遊ぶこと おなかがすくこと 食べること おいしいものをたべること

毛布にくるまること 欲が尽きないこと 美味しいと感じること

目標を達成すること 逃げない・捨てない・アキラメないこと

好奇心にしたがうこと 常に成長し続けること

しゃべること かんがえること 思いめぐらせること 会うこと 人を想えること

表現すること 歌うこと みなで音を奏でること

朝、目覚めること まぶたに光をかんじること 夕焼けを感じること









※今回は新型コロナウイルス対策を万全にした上で開催いたしました。

#### 参加者コメント

- ・アーティストの参加者が多かったので、専門的な内容になるのかなと思っていた。実際には幅広い人が楽しめるプログラムで面白かった。(30代/団体職員)
- ・音楽のアウトリーチを行う立場として、体験する側の気持ちが理解できた。気づきや学びが得られたので、ぜひ今後の活動に活かしたい。(女性)

#### 講師コメント

今日は小さなお子さんが参加されていたので、小学校高学年向けのプログラムや 座学に飽きてしまわないかな?と少し心配していましたが、瑞々しい感性で大人 に交じって楽しむ様子にホッとしました。音楽は万人のものですね。 選曲も悩み ましたが、ご参加の皆さんや佐々木先生にも喜んで頂けてうれしかったです。音楽を共に楽しみ、音や言葉を創る時間を通して一体感を感じ、会場が明るいムードに満ちていくのを感じました。(田村)

私と田村先生のアプローチは違いますが、音楽活動として目的や行き着くところは一緒だと感じました。参加したお子さんの素直な言葉やリアクションに大人が啓発され、音楽と共にみんなの心が広がった気がします。創作詩「生きる」も、全員の波長が合ってイキイキとした表現になりました。まさに文化は「人」だと強く感じた一日でした。(佐々木)

#### 文化芸術交流実験室34

# 建築探偵団 其の五「地形図から読み解く円通寺西側の集落」

日時:2021年10月10日(日)12:00~16:00

開催地: 倉敷市玉島久々井地区、IDEA R LAB(倉敷市玉島中央町)

講師: 真野洋介(東京工業大学環境·社会理工学院 准教授) 石田尚昭(建築家·公益財団法人 岡山文化芸術創造 理事)

良寛さんが修行をした場所として有名な港町・玉島の円通寺。 その西側の集落である久々井地区には、古い立派な建築物が数 多く残っています。久々井地区は倉敷市玉島柏島の北端に位置 し、連島の回船問屋を移築した大きな古民家には、米の燻蒸蔵 を抱えた珍しい建物もあります。

しばしば紹介される玉島の中心地ではなく、ちょっと視線をずら したこのエリアを建築家の方々と地形図や資料を携えて一緒に歩 き、伝統的な建築の特徴や魅力、町の成り立ちの面白さを発見 します。

真野洋介…1971年生まれ、倉敷市玉島出身。早稲田大学理工学部建築学科卒業、同大学院修了、博士(工学)。専門は都市の再生とまちづくり。主な著書に「まちのゲストハウス考」(学芸出版社・2017)、「まちづくり教書」(鹿島出版会・2017)、最近の論説に「ライフシフトと地域デザイン」(まちむら150~153号、あしたの日本を創る協会・2020)がある。

石田尚昭・・・東京理科大学大学院工学研究科建築学専攻修了。1980年岡山市役所に入庁後、庭園都市推進課長、都市整備局審議監(都市・交通・公園担当)として、西川緑道公園の活用事業や旭川かわまちづくり事業などを手がける。2016年に退職し、現在は(公財)岡山文化芸術創造理事を務める。



#### レポート

早くも第5回を迎えた人気シリーズの「建築探偵団」。今回は建物や地域文化に興味のある10数名の参加者が、集合場所の「IDEA R LAB」に集まりました。晴天に恵まれたこの日は、ちょうど年に一度の「羽黒神社秋季例大祭」という地元の祭りが行われており、通りではきらびやかな神輿「千歳楽」の姿も見られました。

まずは参加者全員に江戸時代と近代・現代の玉島の地形図の資料を配り、講師の2人が地形図をもとに玉島の歴史や街歩きの見どころを解説。かつては海に点在する小さな島々だった玉島は、江戸時代の新田開発とともに干拓が進められて集落が形成されました。時代ごとの地形図を見ると、港町として栄えた玉島の変遷が分かります。

この日のランチは地元の中華料理店の特製弁当。和気あいあいと食事を楽しみ、いざ3時間弱のフィールドワークに出発。歩いて里見川の西岸に向かい、商家と土蔵が建ち並ぶ仲買町通りを歩きました。通りにはなまこ壁の屋敷や造り酒屋、元銀行のレトロモダンな建築など、昔の問屋街の面影を色濃く残す建物が残り、あちこちに伝統建築の意匠を見ることができました。

仲買町通りから山際の旧街道へ抜け、集落に残る数々の史跡を見ながら今回の目的地のひとつである 大屋敷・香西邸を目指します。香西邸では連島の廻船問屋を移築した母屋と、学校建築を移築した納 屋の内部を見学しました。黒漆喰で仕上げた外観は、凸状にカーブしたむくり屋根や虫籠窓、室内で は凝ったデザインの欄間や格子戸などの建具を鑑賞。倉庫や納屋には昔ながらの生活道具や農機具が 残されていました。豪商の家らしい広さと凝った造りに、参加者も目を輝かせていました。

帰り道は少しルートを変えて荒(こう)神社に寄り道。高台になった境内からは円通寺北西部の地区が一望でき、参加者は地図と風景を照らし合わせながら玉島の歴史に思いを馳せました。再び仲買町通りに戻り、玉島商店街から裏通りを抜けて「IDEA R LAB」に到着。最後は感想を述べあい、収穫の多かった街歩きと建物鑑賞を振り返りました。



地形図で玉島の歴史や地形を解説



山際の旧街道を歩いて歴史の足跡を発見



米蔵として使われた香西邸の納屋



#### IDEA R LAB(イデアアールラボ)

大月ヒロ子さんが主宰する、日本初のクリエイティブリユースのプラットフォーム。廃材を使った分野横断的なワークショップ、講演会、製作・発表の場、映画の上映、演奏の場として利用・滞在ができ、クリエイティブリユースに関心のあるすべての人に開かれている。玉島の古き良き町並みの一角に位置し、同じ通りには廃材の魅力を発見できる付属のスペース「MATERIAL LIBRARY」もある。今回は実験室の拠点として活用した。http://www.idea-r-lab.jp/



#### 玉島仲買町

里見川の西岸に沿って広がる仲買町は、江戸時代から港町・玉島の商業地として栄えたエリア。玉島港の物資を荷受けする仲買人たちが多く店を構えていたことから名付けられたとされる。江戸から明治、大正にかけて造られた伝統的な商家や蔵、モダン建築が混じり、ものづくりや商いの風景を残した趣ある町並みが魅力。レトロな看板建築も見どころのひとつで、酒屋や味噌醤油屋などは江戸時代からの商いが今なお続けられている。



#### 香西邸

今回特別に見学した大屋敷。昭和初期に建てられた豪邸で、母屋は連島(旧浅口郡西之浦村・早瀬家「福島屋」)の廻船問屋を、納屋は学校の講堂を移築した建物。米蔵として使われた納屋の中には、米に虫がわかないように燻し蒸す処理をしていた燻蒸蔵や保管用のブリキ缶、農機具などが残っている。豪商ならではの広々とした凝った造りで、武家屋敷に比べて無骨さが感じられる。

#### ワークショップ

#### ランチ



出発前のランチタイムは玉島の中華料理店「廣珍」のお弁当で腹でしらえ。おかずが豊富で、地元で愛される昔ながらの味が魅力。注文したデザート、「ハリネズミ」(カスタードクリームの揚げパン)も参加者に好評だった。

#### ワークショップ

12時~ 「IDEA R LAB」に集合

- ・今回の実験室のテーマ、地形図の説明
- ・講師陣を交えてのランチタイム

13時すぎ~ フィールドワークに出発

- ・玉島仲買町通りで建物や看板を鑑賞
- ・山際の道を通り、昔ながらの集落を散策

#### 14時頃~

・香西邸を訪問(母屋、納屋などを見学)

15時頃~別のルートを散策しながら戻る

・荒(こう) 神社〜仲買町通り〜玉島商店街方面へ

16時前~ 「IDEA R LAB」着

- ・意見交換、終了・解散
- ※今回は新型コロナウイルス対策を万全にした上で 開催いたしました。









#### 参加者コメント

- ・身近な土地についての新たな視点を得られて見方が変わった。(30代/男性/教諭)
- ・古民家の特徴について深く知ることができて良い経験になった。今後、日本 伝統の建築や空き家を減らす街づくりを学ぶ上で役立つと思う。(10代/男性/ 学生)
- ・地元ながら知らないことばかりでとても新鮮だった。歴史や建築の視点で、自分の暮らす町の魅力や地域文化を再発見できるのは非常に面白い。(40代/
- ・玉島の懐かしい町並みを巡り、まだまだ宝物がたくさん残っていることが分かった。(40代/女性/会社員)

#### 講師コメント

香西邸の施主さんが、「壊さずに家の価値を残したい」と思われていたことが一番の発見でした。建物活用に関心を持つ方も多く参加されていたので、こうした実験室は活動と場所をつなぐ意義があると感じます。今はリモートワークなどで地域をまたいだ活動がしやすい時代ですし、地元の人だけでなく別エリアの興味ある人やアーティストもどんどん呼び込んで、活動の輪を広げていけると良いと考えます。エリアのコアになる「建物」というテーマは非常にタイムリーだと思います。(真野)

今回は玉島の地形図をキーアイテムに、道の繋がりや土地の成り立ちにもテーマを広げた建築探偵団になりました。香西邸など、普段は入れない場所でいるいるな角度から建物を鑑賞でき、久しぶりに皆さんと街歩きができて楽しかったです。私の地元である玉島には懐かしい風景や建物、昔の人々が暮らしてきた様子がたくさん残っています。案外地元を歩くことが少なく新鮮でしたが、身近な場所こそ歩いてみると面白いのを再確認できました。(石田)

#### 文化芸術交流実験室35

# 町工場を音楽レーベル化する「INDUSTRIAL JP」

日時:2021年11月14日(日)11:00~16:00

開催地: 蔭凉寺(岡山市北区中央町10-28)

講師:下浜臨太郎(グラフィックデザイナー、アートディレクター) 篠原真祐(「蔭凉寺」僧侶、写真家、音響エンジニア)

町工場の製造現場で採取した機械音をサンプリングし、ミュージシャンがオリジナル楽曲を作成、同じく撮影した製造工程の動画とミックスすることで、画期的なミュージックビデオとして発信している「INDUSTRIAL JP」プロジェクト。国内外の音楽愛好家や工場マニア、製造の現場サイド、その工場が立地するエリアの人々からも熱い支持を受けています。

今回は、蔭凉寺でINDUSTRIAL JPの音と映像を楽しみながら、下浜さんの取り組むユニークな活動「のらもじ発見プロジェクト」も体験しました。

下浜臨太郎…1983年東京都生まれ。路上で見つけた看板をフォント化する「のらもじ発見プロジェクト」、町工場を音楽レーベル化する「INDUSTRIAL JP」の活動や、アート関連の展覧会への参加を積極的に行う。主な著書に『おとなのための創造カドリル』『のらもじ』(共著)、受賞歴に第 18回文化庁メディア芸術祭優秀賞、東京 ADCグランプリなど。

篠原真祐…1965年生。京都・南禅寺専門道場で 10年間修行。葬儀中心の仏教に留まらず「今を、どう生きるか」をテーマに、音楽やアート、写真による「豊かなこころ」 創り に取り組む。現在は自坊の蔭凉寺を活かした様々なイベントを展開中で、音楽ライブでは 自身が音響も手掛け、その高音質は海外にも知られている。



#### レポート

今回の会場は、岡山市内の繁華街に位置する蔭凉寺。本堂にはスクリーンと音響がセッティングされ、「INDUSTRIAL JP」の作品をじっくり視聴できるライブ空間が準備されました。参加者は輪になって座り、普段以上に距離感の近い実験室となりました。

まずは講師の下浜さんが観察とサンプリングの表現事例として 2つのプロジェクトを取り上げました。 INDUSTRIAL JPは、町工場の音と映像でオリジナル楽曲を作る音楽レーベルです。下浜さんはリリースした作品を上映しながら、活動のきっかけから楽曲制作の裏側までを紹介。どの作品も完成度が高く、ばねやネジといった機械加工の音と動きがリズミカルに合わさり、クラブミュージック的な心地よいグルーヴ感を生み出します。工場の魅力が伝わる作品と解説に、参加者も大きな関心を寄せていました。

次に町の古い看板文字をフォント化する「のらもじ発見プロジェクト」に話題を移し、のらもじに込められたアナログなデザインの魅力を紹介。下浜さんは、のらもじ提供者となる商店主への取材秘話をふまえ、今までに発見したのらもじのパーツやフォルム、質感の特徴を例に挙げて分析しました。

続いて、のらもじ発見のプロセスを体験するため、岡山市北区にある千日前商店街と表町商店街を散策。参加者は、喫茶店や洋品店に掲げられた看板文字を見つけて「これは、のらもじですか?」と下浜さんに報告。写真に収め、その書体にどんな特徴があるのかを話し合いました。独特の丸い形や角の付け方などに気づくと、不思議と街の書体に愛着がわいてきます。のらもじを通して、見慣れた商店街の景色の中に新たな面白さを発見できました。

蔭凉寺に戻り、音についてトークを広げました。身近な音やその効果を取り上げ、音を素材として販売するデジタルアーカイブを紹介。人の聴覚や視覚を刺激する「ASMR」や個人的なフェチ音をテーマに音の世界を深堀りします。最後に篠原さんが音響の魅力を解説し、レコードとCDの音の響き方の違いを聞き比べ。人の手が作る揺らぎやアナログの魅力とデジタルの融合について、いろいろな角度から再発見する会となりました。



INDUSTRIAL JPの作品について解説する下浜さん



音響に詳しい蔭凉寺の住職、篠原さん



表町商店街で「のらもじ」を発見!



#### INDUSTRIAL JP

日本の町工場をレーベル化するプロジェクトとして 2016年にスタート。高い技術力を持った全国の町工場に出向き、その製造過程から生み出されるさまざまな工作機械の音や動きの映像を収録。ミュージシャン、トラックメイカーとのコラボにより楽曲を製作し、ミュージックビデオとして作品化したものをネットで公開している。日本の町工場が持つ魅力を引き出し、国内の中小製造業を盛り上げることを目的とした取り組みは、各所で高い評価を受けている。

https://idstr.jp/jp/



#### のらもじプロジェクト

古い町並みの中でよく見かける、商店の看板や案内板に書かれた店名などの文字。その愛らしく味わい深い文字を「のらもじ」と名付け、その形状やデザインを分析してフォント化するプロジェクト。制作したフォントはサイト上でダウンロードでき、代金は「のらもじ」の提供者に還元している。都市の景観や文化をタイポグラフィーの視点で伝えるユニークな活動として、第18回文化庁メディア芸術祭優秀賞を受賞。



#### 蔭凉寺(いんりょうじ)

寛永 9年に創建された、築約 300年を超える禅宗(臨済宗) の寺院。葬儀中心の仏教に留まらず「今を、どう生きるか」をテーマに、音楽やアートによる「豊かなこころ」創りに取り組んでいる。充実した音響設備を備えた本堂では、多彩なジャンルのライブやイベントを開催。15代目の篠原住職が自ら音響や照明、設営に携わり、撮影した写真を使ったインスタレーションも発表するなど、文化・芸術の拠点として注目を集めている。

#### ワークショップ

#### ランチ

今回は「のらもじ」探しのタイミングに合わせて、表町商店街の中で2グループに分かれて昼食をとった。

#### ワークショップ

11時~ INDUSTRIAL JPについて

- ・全員で自己紹介 各自が好きなこと、興味のあることを発表
- ・プロジェクトについて紹介 (楽曲の視聴、制作の裏側など)

12時~ 「のらもじ」研究について

- ・路上、街の看板にある独自のフォント「のらもじ」の 魅力について解説
- ・「のらもじ」の特徴を分析

13時~ 「のらもじ」探しに千日前商店街、表町商店街へ

- ・味のある看板文字を見つけて写真撮影
- ・2グループに分かれて昼食タイム

15時~ 「蔭凉寺」着

- ・「のらもじ」の振り返り
- ・町工場の音や収録、音の素材について深く解説
- ・篠原さんの音響解説 レコードと CDの音の違いを聞き比べる
- ・意見交換

16時~ 終了・解散









#### 参加者コメント

- ・切り口が面白くて刺激になりました。面白い取り組みが工場や地域を盛り上げることにもつながっていてスゴイと思いました。(40代/女性)
- ・いつもの実験室と違う視点が面白く、違う世界をのぞきつつも普遍的な発見がありました。INDUSTRIAL JPの映像作品はとにかくカッコ良かった! ワークショップということで、もう少し作ったり手を動かしたりしてみたかったです。(30代/女性/自営業)
- ・一から生み出す創作ではなく、音を素材として組み合わせるのが新鮮に感じ、新たな気づきを得られた。(40代/女性/会社員)

#### 講師コメント

自分の思考として、一見関係のなさそうな要素をつなげて、共通点や自分なりの法則性を考えるクセがあります。今回紹介したプロジェクトのようなデジタルとアナログの関係性も含めて、その思考を表現として伝えることの難しさ、大切さを感じました。今回は「のらもじ」探しを体験してもらいましたが、街歩きの中で見つける楽しさ、これといった正解やルールがない面白さも「のらもじ」の魅力のひとつ。今後も、日本の産業的なものを文化的に見直す活動をやっていきたいです。(下浜)

INDUSTRIAL JPの作品はディテールがあって見どころがあり、工場と音、映像が上手くリンクした完成度の高い作品だと感じます。「のらもじ」を探す街歩きも楽しく、普段と違った視点や知識のおかげで街の見え方が変わりました。どちらのプロジェクトもアナログとデジタルの中間領域で、音もビジュアルも同じ要素があると感じました。無理にテーマと合わせず、この形に着地したことも実験的で良かったと思います。昼食の時間も含めたコミュニケーションの中で、さまざまな気づきをもらえました。(篠原)

#### アートマネジメントオンライン研修 結局、AIRって何なの?!

日時:2021年10月12日(火)15:00~16:00

開催地:YouTube配信

講師: 八巻真哉(京都府文化スポーツ部文化芸術課 / ALTERNATIVE KYOTO ディレク

AIR(アーティスト・イン・レジデンス)とは、様々な芸術制作を行うアーティストを一定期間ある地域に招聘し、アーティストが滞在しながら作品制作を行う事業のこと。最近では行政規模の小さな地方都市が AIRに取り組む事例も見られます。実際のところAIRの現場では何が起こっているのか、そもそも誰のために、何のためにこぞってAIRを招聘するのでしょうか。今回は京都府の文化担当で、AIR事業や京都府地域文化創造促進事業等のプログラムオフィサーを務める八巻真哉さんを講師に迎え、AIRの本質について具体的な先進事例から学び、考えます。

八巻真哉…2015年 6月より京都府文化スポーツ部文化スポーツ芸術課に所属し、京都府域での文化芸術による事業企画の実施・運営等に関わる。現在は地域文化振興担当として、AIR事業や京都府地域文化創造促進事業等のプログラムオフィサーを務める。京都府地域文化創造促進事業では、文化活動を支援する専門人材(地域アートマネージャー)を京都府の広域振興局に配置し、各地域で文化活動を支援する体制づくりを行っている。

#### アートマネジメントオンライン研修

# 結局、AIRって何なの?I

Art Bassgement 0nline Seminar 10/12 \$ 15:00-16:00



様々な貨物制作を行うアーティストを一定期間ある地域に指刺し、アーティストがその地域に滞在しながら作品制作 を行う事業、AR、アーティストから見たAIRとは了地域にとってのAIRとは?AIR つて本当にやる意味あるの?賞業 だけかを行して始った気になっているAIRの表質について、具体的な光楽等的から学び、考えます。



講師:八巻真調

#### レポート

京都府域の自治体と共にアーティスト・イン・レジデンス事業、「京都:Re-Search(リサーチ)」に取り組む八巻さん。丹後、中丹、南丹、山城と府広域でどのようにAIRを行っているのか、その活動や目的から見えてくる AIRの意義について発表していただきました。

#### ●なぜアートなのか? なぜ AIRなのか?

八巻さんは、まず AIRの前に「なぜアート(が必要) なのか?」という原点に立ち返りながら話を進めました。アートは自由なモノの見方や考え方を促して「気づき」を与え、地域課題を解決するのではなく、あくまでも問題提起の糸口となるもの。都市や地域の暮らし、経済活動の質を高め、新たな価値を生み出す要素である、と捉えています。

そこから「なぜ AIRなのか?」の問いについて、「地方の文化政策形成の仕組みづくりの一つとして有効では」と話しました。AIRはアーティストの育成・支援、地域振興や活性化の手段として用いられています。アーティストやクリエイターが集まる場所には、常に革新的な試みと交流が生まれています。AIRは各地域の魅力や文化、課題を可視化して見せる手段として大きな可能性を秘めています。

「京都: Re-Search」では「新たな風土の発見」をコンセプトに、地域の課題や魅力をアートの視点から引き出し、地域資源を活かしたプログラムや新しいドキュメントを作成。アートを教えるのではなく「アートで育てる」という取り組みによって、地域に眠る宝を掘り起こしながら新たな価値の発見につなげています。

#### ●「京都: Re-Search」の事例紹介

「京都: Re-Search」は2カ年プロジェクトで、丹後、中丹、南丹、山城の 4つの振興局単位にアートマネージャーを配置し地域発信型の AIRやコミュニケーション事業を展開。若手を中心に幅広い分野のアーティストを全国公募し、府民との交流や協働をもとに作品制作を行っています。セミナー会場では、参加者に事業報告書や展覧会チラシなどの資料を配布しました。

【1年目】2週間ほどの短期滞在で、地域の風土や歴史などをリサーチ。地域資源を生かした作品の構想やプランを作り、次年度の実施を目指します。

【2年目】約2カ月に及ぶ滞在期間で作品を制作し、実施市町村内で鑑賞や交流の機会を創出。「大京都」という名称で展覧会事業を実施しています。





この事業運営で特に重要なのが、文化活動を支援する専門人材「地域アートマネージャー」の存在です。京都府内の各振興局に配置されるアートマネージャーは、 文化芸術活動に関わる体制づくりや実態調査、ワークショップなどの自主企画・運営などを実施。地域と芸術文化活動の橋渡し役として活躍しています。

文化施設的な箱は持たず、空き家などを活用しながら地域交流を軸に調査・作品制作を行う「京都: Re-Search」。街と人との出会い、視点や価値観の再提起、そして創作活動の実行という創造的な循環を積み重ねています。八巻さんは「事業を永続化し、交流人口の拡大、地域の活性化につなげるのが目標」とまとめました。

#### ● AIR事業の可能性と成果

後半は、2017年の「京都:Re-Searchフォーラム」を紹介。「AIRの位置づけ」というテーマで開催された同フォーラムについて、基調講演やディスカッションで挙がった参加者の意見をまとめました。

「アーティストにとって許された場所である」、「物事を違う角度で考えるきっかけを作る」などの言葉から、AIR事業の意義や利点について述べました。

八巻さんは「例えばデザイナー、シェフ、科学者を招聘するなど、アーティストという言葉をもっと広義に捉えて良いと思う。地域にクリエイティブな風を起こすことが大切。地方こそ AIR事業を活用すれば、文化交流の可能性を広げられるはず」と話しました。

最後は AIRの成果について、「アーティストや地域の人達がアートを実感し、一人ひとりの暮らしの中でじっくりと醸造される、いわば見えないモノの中に成果があるのでは」と提言。

「地域に暮らす人を主役に、アートを通じて交流人口を増やす関係づくりを目指したい」と締めくくりました。





#### キーワード



#### 「京都: Re-Search」事業

京都府で取り組んでいるアーティスト・イン・レジデンス事業。アーティストが京都府域の市町 (京丹後、南丹、八 幡、和束 (わずか )等 )の各エリアに一定期間滞在して作品制作・発表を行う。地域の人々が主体となり、芸術文化活動に関わる環境づくりを促進。地域の持つポテンシャル・魅力をアートの視点から引き出すことを試みながら、交流人口の拡大や地域活性化に寄与している。

http://kyoto-research.com/#

#### Q&Aと感想

#### Q1. アーティストの選定について教えてください。

A. 「京都: Re-Search」に関しては、若手作家を中心に全国公募を行います。知名度や実績よりも、地域とのマッチングや面白さを視点に選定します。それと合わせて、1年目の短期滞在にはゲストアーティストを呼び、作家へのレクチャーも兼ねて一緒にリサーチをしてもらいます。ゲストアーティストがコアになって人が集まる仕組みをつくっています。

Q2. どんな人がアートマネージャーになるのですか? アートマネージャーを置こうと思ったきっかけは?

A. 2016年から京都府の事業に関わる中で、行政との文化的知識の差や意識のズレが生じていることを感じました。そこで、京都府のベンチャープログラムで専門的な人材を振興局単位で配置提案したのがきっかけです。マネージャーには、AIRや文化事業の経験があるコーディネーターや、レジデンス経験がありアートに興味を持つ 方など。キャリアパスのひとつと捉え、職業として成り立つ循環プログラムを目指しています。

#### 講師コメント

今回は私自身の AIRの活動や考え方を伝えましたが、決して決めつけず、さまざまな受け取り方で活用してもらうのが良いと思います。皆さんが疑問に思っている事の解決に少しでも繋がればうれしいです。(八巻)

#### アーカイブ映像



### アートマネジメントオンライン研修 **きく・みる・知るから始める!** オンラインコンテンツの 「可能性」と「作法」

日時:2022年3月9日(水)19:00~21:00

開催地:Zoom配信

講師:中村茜(パフォーミングアーツ・プロデューサー、株式会社プリコグ代表取締役)
水野祐(弁護士、Arts and Law理事、Creative Commons Japan理事)

ファシリテーター:大月ヒロ子(おかやま文化芸術アソシエイツプログラム・コーディネーター)

テレワークが浸透し、オンランコンテンツの制作や配信が盛んに行われています。文化芸術分野においてもコンテンツが増産され続け、表現やアーカイブを考え発表する上で欠かすことのできない存在になっています。今回は、オンライン劇場「THEATRE for ALL」で先進的な取り組みを続ける中村茜さんと、芸術文化・創造的活動への支援を行う「Arts and Law」理事で、知的財産権が専門の弁護士、水野祐さんを講師にお迎えし、オンラインコンテンツの可能性と、それを支える作法について考えます。

中村茜…現代演劇・ダンスのアーティストやカンパニーのプロデュース、人材育成事業などを 手掛ける。パフォーミングアーツの制作会社「precog」の代表・プロデューサーなど、領域横 断的な表現を追求しながら多彩なプロジェクトへ活動の幅を広げ、アクセシビリティに特化し たオンライン劇場「THEATRE for ALL」を開設。令和 3年度(第 72回)文化庁芸術選奨・ 文部科学大臣新人賞受賞。

水野祐…弁護士(シティライツ法律事務所)。九州大学 GIC客員教授。Creative Commons Japan理事。Arts and Law理事。note株式会社などの社外役員。テック、クリエイティブ、都市・地域活性化分野のスタートアップから大企業、公的機関まで、新規事業、経営戦略等に関するハンズオンのリーガルサービスを提供している。著作に『法のデザイン –創造性とイノベーションは法によって加速する』など。



#### レポート

●先進事例として「THEATRE for ALL」を紹介(アクセシビリティ編)

セミナー前半では、中村さんが総括プロデューサーを務める THEATRE for ALLのアクセシブルな取り組みについて紹介。THEATRE for ALLは「だれでも、いつでも、どこからでも、ひとりひとりが繋がれる "劇場"」を合言葉に、手話通訳や音声ガイド、多言語字幕などに対応した映像作品などを配信するプラットフォームです。

中村さんは、THEATRE for ALLに繋がった経緯として「超ダイバーシティ芸術祭」の活動を取り上げました。

この芸術祭でアクセシブルなイベント設計を行った経験から、障害の有無、性差、言語や国籍などを越えた多様な人がつながる仕組みの大切さや、オンライン演劇の可能性について考え始めたそうです。

セミナーでは社会背景として障害者、外国人、子育て世代の増加人口や文化への関心を調査 したグラフを提示し、アートにアクセシビリティが必要であると話します。

THEATRE for ALLでは、作品ごとに作家や制作会社と相談しながらアクセシビリティ対応を検討。環境や身体の違う人でも"劇場"にアクセスできるサービスに挑戦しています。中村さんは、多彩なコンテンツの中からデジタルアート「バーチャル身体の祭典(AR三兄弟)」や、人それぞれの異なる知覚「環世界」をテーマにした「没入型映像 イマージュ (異言語 Lab.)」などを例に挙げ、作品ごとの情報保障や鑑賞ポイント、バリアフリーなサイトデザインの工夫についてレクチャーしました。

動画配信、ラーニング、コミュニティの3つの事業軸を持つTHEATRE for ALLについて、「オンラインからリアルな対話や体験の場への接点、チャンネルをつくることが大切」と話す中村さん。ワークショップや解説動画といったラーニングプログラムも紹介し、視聴者は新たな創造力や視点、発見を生み出す活動について詳しく知ることができました。





「ボクの穴、彼の穴。」姿の見えないひとを音で感じるワークショップ

#### ●「THEATRE for ALL」を運営していく上で必要な著作権の基礎

中盤からは講師の水野さんを交えて、ファシリテーターの大月さんや視聴者の質問を中心に講義を進めていきました。「オンラインコンテンツをつくる難しさは?」 という問いから、後半のテーマとなる著作権についての話題へと展開。水野さんは THEATRE for ALLのリーガルアドバイザーとして、法律という視点から見たオンライン配信やアクセシブルな表現にまつわる問題点を挙げました。

「例えば、ネット配信における既存曲の使用許可や手話通訳の著作権など、オンラインはリアルな実演とは権利関係の扱いが異なる」と水野さん。 続けて、「まだ細かく整備されていない現状はあるが、権利処理の課題をクリアにしていくことが大切」と見解しました。その一方で、水野さんは芸術の新たな 創造や仕組みづくりができるオンラインコンテンツの可能性にも期待を寄せている、と話しました。

#### ●ディスカッション

後半は引き続き視聴者からの質問や感想をテーマに、アクセシビリティを意識した芸術表現やオンラインの可能性についてディスカッションを実施。情報公開をする際のルール設定や手話文化の面白さ、学校でのオンライン化などの具体的なテーマが上がりました。

視聴者は自身の仕事や活動に置き換えながら、オンラインやバリアフリー活用のあり方について興味 を深めるきっかけとなりました。



#### キーワード



#### "THEATRE for ALL"(シアター フォー オール)

アクセシビリティに特化したオンライン劇場として、2021年2月よりサービスを開始。パフォーミングアーツやダンス・映画、メディア芸術を対象に、日本語字幕、音声ガイド、手話、多言語対応などを施した動画配信を行っている。多様な人がつながれる劇場を目指した取り組みとして、作品をより感じて楽しむための教育事業「THEATRE for ALLラーニング」、様々なアクセシビリティについてリサーチ活動を行う「THEATRE for ALL LAB」も展開している。

https://theatreforall.net/

#### Q&Aと感想

- Q1. 翻訳が可能、不可能なことの間から見えてくることはありますか?
- A. 作品の中に出てくるセクシャリティな表現を表す手話が無かったため、手話チームを組んで表現をつくり出すことから取り組みました。芸術や表現の世界だからこそ、不可能なことの先に行けるのだと感じます。(中村)
- Q2. コンテンツの制作における工夫は?

A. 作品の手話通訳や音声ガイドを、専門の会社だけではなくアマチュア団体に依頼したケースがあります。手話・翻訳キャリアを持っている地域の団体は結構いまして、芸術団体には無いノウハウを得られたり、バリアフリーを考える人と繋がりができたりするメリットがありました。人や情報を丁寧に探していくと、やり方はいろいろあると思います。(中村)

- Q3. オンラインで情報公開する時、守るべき表現のルールはありますか?
- A. 例えば、障害は個人ではなく社会にあるというスタンスで、「障害を持つ人」ではなく「障害がある人」と表記するなど、言葉遣いで気づいた点をリストにしています。 それぞれのサイトにルールを設け、その作成においては当事者に確認してみることも有効だと思います。(中村)

#### 講師コメント

今回は法律的な基礎知識を話す場ではなく、THEATRE for ALLを通して実践的なオンラインコンテンツの話ができました。オンライン化だけを目的にすると無味乾燥なものになりますが、一方で新しい文化芸術の可能性を広げられる機会だと捉えれば、より良い表現やコンテンツが生まれると思います。(水野)

アクセシビリティ、インクルーシブ(社会包摂)、ダイバーシティ(多様性)といった言葉が流行語のように扱われていると感じるので、それが定着する社会に向けて取り組みたいです。最近エンパシー(他者の考えや想いをくみ取り、理解する)能力の大切さや、直接関わっていくことの必要性も感じているので、現在の事業やオンライン上の表現でも取り入れていきたいです。(中村)

# おかやま県民文化祭 これがOKAYAMA!プログラム

県民が文化に親しみ交流するとともに、日頃の文化活動の成果を発表する場として「おかやま県民文化祭」を開催。岡山県文化連盟が運営主体となり、「備中国のくらしと音~音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて~」をテーマに、音にまつわるプログラムや、それを育み音が生まれる場所、音と暮らすキーマンを紹介した。また、くらしと音を楽しむワークショップを開催。新型コロナウイルスの感染状況をふまえて、広報物として制作している小冊子そのものに収録する紹介記事を充実させたり、YouTube上で音声コンテンツを楽しめるようにするなどの取り組みも行った。

#### 日時 | 2021年9月~11月

#### 開催地|【岡山市】蔭凉寺

【倉敷市】住吉町の家 分福/立花容器 木製工場/ウームブロカントクラシキ美観地区店 倉敷町家トラスト事務所/倉敷市玉島久々井地区/IDEA R LAB

【笠岡市】シェアアトリエ海の校舎

【高梁市】高梁市図書館 多目的室

【矢掛町】やかげ町家交流館 谷山サロン

【オンライン】YouTube(OKAYAMA CULTURE V)

#### 参加者数 | 3,310名 (YouTube視聴回数含む)

内容 | 特別ワークショップ10事業(文化芸術交流実験室、アートマネジメントオンライン研修含む)

- ・ 【詩で遊ぼう】 ちきゅうの声とたわむれる
- ・【詩的実験】なぜだか気になることばたち
- ・桶樽の技術で間伐材を楽器に!
- ・「編む」を聴く ~倉敷いぐさの瓶かごづくり~
- ・手話に学ぶ身体表現
- ・「音の映画-Our Sounds」上映会&トークセッション
- ・文化芸術交流実験室vol.33 子どもの心に届けるプログラム「音楽のアウトリーチ」※延期
- ・文化芸術交流実験室vol.34 建築探偵団 其の五「地形図から読み解く円通寺西側の集落」
- ・文化芸術交流実験室vol.35 町工場を音楽レーベル化する「INDUSTRIAL JP」
- ・アートマネジメントオンライン研修「結局、AIRって何なの?!」

#### その他、冊子紹介9事業

- ・幻想あかり~斎館~
- ・光・風・音 ~希莉光の世界~
- ・倉敷ジャズストリート2021
- ・かくてかくゆき・音のたつ 岡村勇佑/かとうかずみ
- ・第3日曜日の友コンサート
- ・備中能楽講座
- ・つばきの丘運動公園
- ・日本郷土玩具館
- ・奏 KANADE コンサート



【詩で遊ぼう】ちきゅうの声とたわむれる



桶樽の技術で間伐材を楽器に!



「編む」を聴く~倉敷いぐさの瓶かごづくり~



手話に学ぶ身体表現



「音の映画-Our Sounds」上映会&トークセッション



広報物「音が聞ける冊子」



(PDFデータ)

#### 備中国のくらしと音~音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて~

ちょっと耳を澄ましてみましょう。

たとえば、朝、布団の中にいるあなたの元にとどくお寺の鐘の音。時報がわりの音楽。近所のお年寄りが挨拶する 声。誘い合わせて出かける小学生のおしゃべり。しばらくすると、学校や工場の始業のベル。車のエンジン音や自 転車のブレーキの音。犬や猫の鳴き声。

外に出れば鳥の鳴き声。木々を揺らす風の音。潮騒や川のせせらぎ。時には雨音。草を刈る音。鶏や牛の鳴き声。 誰かが楽器を練習する音。幼稚園の園児が遊ぶ楽しげな声。仕事場から聞こえてくるモノづくりの音。放課後の 運動部の掛け声。

タ方になれば、家路を急ぐ人々のざわめきに溢れる駅のプラットホーム。どこからか料理をする音や匂い。ダンスの練習をする若者が流す音楽。店で談笑する人々。グラスやお皿がぶつかる音。お風呂の洗い場に響く湯桶やお 湯の流れる音。

寝てしまってその音は聞けていないかもしれないけれど、誰かに向かって話す深夜ラジオの声、遠くを走る貨物 列車の音、まだ暗いうちに漁に出ていく船のエンジン音。

くらしをいろどる音は、かくも多彩です。コロナ下、人同士が離れていても、声や音で人の営みを感じ安心された 方も多いのではないでしょうか。

しかし、昨今、色々な国で、音に対する寛容度が低くなってきていることが心配されています。日本もしかり。再生機器の発達で、どこにいようとも、いとも簡単に、自分の好きな音を楽しめる時代になりましたが、くらしの中にこれまでごく自然に存在していたさまざまな音が、なぜか、ゆったりと受け止められなくなりつつあるようです。 最近、フランスでは匂いや音(ニワトリの鳴き声や牛の匂いなど)を、田舎に特有な「知覚的文化遺産」として守る法案を作りました。逆に、オーストリアでは大きな音が出るカウベルの代わりに、牛にGPSをつけるという、現代的な解決策が採用されました。知覚的文化遺産とは、まさに文化芸術の根っこを支えるものであり、そして、人間が生きていく上で最も大切なものであるように思います。これがなくなっていくと、互いに息を潜めてくらし、表現することもままならない、生きる喜びのない世の中になってしまいます。

今年のおかやま県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」では、「備中国のくらしと音〜音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて〜」をテーマに、県民文化祭期間中に備中地域で開催される、音にまつわるプログラムや、それを育み音が生まれる場所、さらに音と暮らすキーマンをまとめてご紹介します。備中エリアには、音楽に親しむ人が多く、専門の大学もあります。また楽器を手作りする人もいます。このエリア出身の若いシンガーソングライターを思い浮かべる方もいるでしょう。仕事唄や盆踊りなどの民謡民舞もたくさん残っています。神楽などに代表される伝統芸能も盛んです。山間部ではヤギの鳴き声がのどかに響き、工場ではモノづくりをする音も聞こえます、酒蔵に音楽が流れていたりもします。

「くらしと音」で取り上げるのは、音、音楽、声、言葉。音楽ホールやライブハウスだけでなく、生活する環境の中で 出会うさまざまな音の豊かさに気づくことにより、私たちがこれまでに無意識的に育んできた知覚的文化遺産に 目を向け、いや、耳をかたむけ、それをこれからも寛容度を持って大切にしていきたいと思います。どうぞご一緒 に、各地の音を訪ねてみましょう。

(大月ヒロ子)

「備中国のくらしと音~音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて~」の小冊子で紹介した音の文化、人、場所を抜粋して紹介します。



#### ハブヒロシ(金ノプロペラ舎)

Profile | インドネシア国立芸術大学やセネガルのドゥドゥ・ンジャエ・ローズ・ファミリーのもとなどで音楽を学ぶ。 大学卒業後は馬喰町バンドや松崎ナオらとの活動や、関ジャニ∞のレコーディングなど様々なジャンルで活躍。東京から岡山まで自作太鼓「遊鼓」を叩き歩いて移住。2019年 CD「長蔵音頭」発表。高梁市在住

「くらしと音」の関わり | 私は、音楽活動の他に、地域づくり、丹田呼吸の普及などしていますが、活動の一つの核となっているのが"対話"です。対話の対象は人間とは限りません。東京から岡山まで遊鼓を叩き歩いた時は、その道のりと。長蔵音頭という地域の芸能を再生した時は、亡くなられた先人たちと。丹田呼吸をしている時は、自らの心と。日々の営みの中で、声にならない声、音にならない音と対話し、そのプロセスを、出会いの響きとして奏でようとしているのだと思います。



#### 川埜龍三(芸術家)

Profile | 独学で美術を学び、既存の価値観に左右されない独自の芸術活動を続けている。近年は、彫刻や絵画のほかに特定の地域の歴史を掘り起こし、その土地に眠る伝説を可視化する手法で象徴的な作品も発表している。笠岡市在住

「くらしと音」の関わり | 10代の頃から、時間があれば CD・レコード屋にいました。ジャケットを眺めたり、聴いてみたい曲を店内で流してもらったりして音楽に夢中になりました。

それからは寝るとき以外、つまり制作中はずっと音楽を聴いています。今ではときどき、自分の作品に合わせた音を作って遊んでいます。



#### 金光英子(大谷 archive)

Profile | 大谷 archive(アーカイブ) 会長。元図書館員(学芸員や司書) の経験を活かし、大谷門前町にある『歴史・文化』と人々を繋ぐことで、地域の魅力を再発見してもらうことを目的として活動している。浅口市在住

「くらしと音」の関わり | 大谷 archive(アーカイブ) は、金光町大谷門前町の歴史文化と人を繋ぐ活動をしている。2018年無声映画フイルムが発見された。このフイルムは、大正 13年に制作されたもので、当時の舞台である金光駅や商店街の様子が映っていて驚くほど懐かしい。ところが、無声映画に活弁士の語りと音楽家の演奏が加わることによって芸術になっていく。

音楽によって無機質だった映像に命がふきこまれ、画面が立ち上がりうごきだす。さらに活弁士の語りが加わることで、 彩がつき画面が華やいでくる。音楽と活弁士の掛け合いが、観客の心を一つにしていく。観客 ×活弁士 ×音楽家、相 互作用を及ぼしながら芸術作品にしたてあげられていく様が、素晴らしい。



#### 上月真子(オーボエリード アトリエ KOZUKI)

Profile | 倉敷市出身、在住。愛知県立芸術大学を経てドイツ・デトモルト音楽大学にて研鑽を積む。ドイツ・ベルギッシェシンフォニカー、デトモルト音楽大学講師などを経て 2019年帰国。アトリエを立ち上げリード製作販売、演奏活動を行う。

「くらしと音」の関わり | 散歩をするとき、そこにある「音」に耳を傾けます。

その季節に聞くことのできる自然の音、鳥たちや虫たちの鳴き声は日常の忙しさから一瞬解放されて落ち着くことができます。自然の音は私たちの生活に潤いを与えてくれる大事なものだと感じます。

私がオーボエを練習していると、時々窓の外にオーボエの音と競争するように「ヒヨドリ」の歌声が聞こえてくることがあります。可愛いですね。



#### 今野友紀(特定非営利活動法人かんなぎ)

Profile | 新潟市出身。高校から国内外を転々とし、仕事でも多国籍な人々と触れ合う機会に恵まれ、文化の違いを感じてきたことが、自らの幼少期の原点につながる。お祭りがあたりまえにあり、人々が共助しあう暮らしを現代に繋ぎとめたいと思うようになり、神楽など地域の情報発信や様々な活動を展開中。

「くらしと音」の関わり」どこからともなく聞こえてくると心が躍る、そういった音をみなさんお持ちだと思います。実家の隣がお祭りの山車や神輿の練習場だったのでお祭りの音に慣れ親しんできました。生まれ育った地域で生まれる音は常にその人と共にあり、楽しい思い出が紐づいていると、一気に純粋な自身の核とその地域を再度結びつけます。そういった感覚を呼び起こすものの一つとして、岡山の備中地方に備中神楽があります。反復的な音や所作が繰り返される神楽は、舞う側も、見る側も、申し合わせずとも、身体に刻んだ音のリズムに反応することが非常に心地よいと感じます。そして独特の節で和歌を語り、音として地域の歴史をつないでいく大切さを実感しています。



#### 渡邊めぐみ(詩のソムリエ)

Profile | 1989年福岡生まれ。小学校入学時に詩の本「ひばり」が配られたことを機に詩の楽しさを知り、大学で戦後詩を研究。2015年に教育系企業に入社、教材編集職を経て開業。会社員をしながら始めた「詩のソムリエ」を本格的に始動し、詩のワークショップ・詩に関する執筆などを幅広く行う。倉敷市在住

「くらしと音」の関わり | 詩を広める活動をしていると、詩人たちはこまかい音のちがいをとらえていることに気づきます。 雨の音だって、「ほっぺたにあたって ぷちん/てのひらのなかにぽとん/こいぬのはなに ぴこん」(岸田衿子「いろんなおとのあめ」)ほら、楽しい詩に。なんだか自分も作れそうでしょう?

たとえば、ドアの音。元気な時は「バタン!」とひらくし、いやなことがあった日は「とぽん…」としまります。今度は海のそば。波は「ざぷーん」ですか?日によっては、「ごぼ」「パチャ」「ボコ」いろんな言葉を発していますよ。



#### 当真伊都子(ピアニスト・ボーカリスト)

Profile | ピアニスト、ボーカリスト、作曲家。ピアノを用いて風景や物語を描き出す、その独自の美意識を貫いた表現は、音楽家、美術家、など多方面から評価を得ている。2020年 3rdアルバム "The Window"をスウェーデンのポストクラシカルレーベル 1631Recordingsよりリリース。2020年より、菊地慎と"synfilums"スタート。倉敷市在住。https://itokotoma.com

「くらしと音」の関わり | 私は幼い頃からピアノを弾いています。本を読むように楽譜を読んでいました。楽譜を読み、鍵盤を叩く。まるで物語に没頭するかのように楽譜から生まれる音に夢中でのめり込んでいました。私とピアノは色々な気持ちをシェアできる大切な友達です。大人になって、二つの大事なことと出会いました。ジョン・ケージの「4分 33秒」、それと、とある演奏家の「楽譜の中に意味の無い音、余白、は一つも有りません」という言葉。それら二つの事柄は、私を全ての音、全ての存在を肯定へと導こうとしてくれています。耳を澄ませば聞こえてくる音、あなたが紡ぐ音。くらしは愛おしい音に溢れています。



#### 吉村淳子(ピアノ教室アレグロ主宰)

Profile | 作陽音楽大学卒業。大阪市立大学大学院修了。新見公立短期大学にて保育者養成と介護福祉士養成に39年携わる。退職後、新見公立大学非常勤講師。大学院にて音の文化と環境音楽論について研究。人の暮らしと音について、大学の授業を通して地域と連携しながら活動を行う。新見市在住

「くらしと音」の関わり | 私は、大学の地域福祉学科で「音の文化論」という科目を担当しており、高齢者理解の一つの方法として「音」を切り口に展開しています。学生は、高齢者が生まれてから現在までどのような環境でどのような音を聴きながら暮らしてきたのかについて考えていきます。自然界の音、コミュニティーの音、暮らしの音など地球上にある全ての音を対象に、高齢者が聴き重ねてきた音の持つ意味や重要性について考察します。学生は、実際に新見市内の古民家や通りを訪ねて、五感を使って当時の暮らしの音を想像し体感します。この体験から、介護施設における快適な環境とはどういうものか、また、高齢者が快く暮らすには何が大切なのかなどを考えていきます。



#### 森光康恵(備中「聞き書き」実行委員会)

Profile | 倉敷で生まれ、玉島で育つ。現在は総社市在住。自宅を自ら改装し、古民家風ギャラリーカフェきび工房「結」をオープンして13年目を迎える。一般社団法人高梁川流域学校理事。備中「聞き書き」実行委員会事務局。そうじゃぼっけえ造形の会事務局。高梁川流域音楽会奏 KANADE事務局

「くらしと音」の関わり | 2008年笠岡市市民活動支援センター常駐スタッフとして着任。事業を行うにあたり、澁澤寿一氏(渋沢栄一の曾孫、真庭なりわい塾 塾長) に相談したところ、「『聞き書き』が良いと思う」という一言で、2009年から笠岡で始めた。今はフリーで備中を中心に、澁澤氏の協力により「聞き書き」の 12回目を実施中。地域で暮らす人生の先輩であり、自分とは違う時代を生きぬいた話し手の、仕事や生きざま、知恵などを「聞き」、録音した言葉を高校生がすべて「書き」起こす。大変なその作業は、話し手の言葉では表せない思いや、情景が浮かぶ瞬間でもある。「コミュニケーションは言葉だけでなく、心で聞くことだと気づいた」と高校生は言う。話し手の言葉を五感で感じることは、高校生を成長させるようだ。



#### 放課後デイサービス「ホハル」

ホハルは、発達に特性がある、または学校に行くことが苦手な子供たちが放課後に通う学びの場です。

ホハルでは学習支援もしていますが何度も何度も同じ物語を読まされる音読の宿題には、子どもも大人も飽き飽きしてしまいます。これでは物語を感じる情緒が育つどころか、物語が嫌いになってしまいます。そこでホハルでは「音読をラップでしよう」と試したところ、ラップで気持ちを伝えることが日常でも流行ってしまいました。この音源は本の物語と自分の気持ちをミックスした即興のリリックです!

[住所] 〒714-1204 小田郡矢掛町下高末 2686

[電話] 0866-83-0300

[MAIL] mikawa@hoharu.com

[WEB] https://www.hoharu.com

「備中国のくらしと音~音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて~」の小冊子で紹介した音の文化、人、場所を抜粋して紹介します。



#### 菊池酒造株式会社

晩秋の蔵、"コンサート"の開演です。早朝の静寂にシュッシュッと響く蒸米のエネルギッシュなスチーム音。蔵人たちの掛け合う声。瓶と瓶がカンカンとやさしく当たりリズムを刻む。耳を澄ませばフツフツとモロミが神秘的な生命の音を。そしてこれらが一つにまとまるように、当蔵では酒造りの間、モーツァルトの荘厳な音楽が流れている。倉敷管弦楽団を設立・指揮を務める蔵元の菊池東は、蔵の中でもたくさんの音を統率し、一度飲んだら忘れられないお酒造りに導く杜氏でもある。菊池東自身もヴァイオリンを奏でる音楽家の顔も持ち、毎年春には蔵開きイベントで自ら演奏したり、話題の音楽家とのコラボレーションで好評の酒蔵コンサート。銘酒「燦然」「奇跡のお酒」は創業 143年の伝統と情熱的な音で醸されている。

[住所] 〒713-8121 倉敷市玉島阿賀崎 1212

[電話] 086-522-5145

[MAIL] sanzen@kikuchishuzo.co.jp

[WEB] http://kikuchishuzo.co.jp/



#### 海の校舎(旧大島東小学校)

岡山県笠岡市、瀬戸内沿いにある廃校になった木造校舎と鉄筋校舎。ここでは木を削ったりミシンを踏んだりなどのもの作りの音と、鳥、虫、草木たちの自然の音が心地よく聞こえてきます。海の校舎は廃校を活用したクリエイターのためのシェアアトリエ。手仕事やデザインなど、生み出す人たちの仕事場として新たな場づくりに取り組んでいます。ノスタルジー溢れる豊かな環境で日々クリエイターが制作をおこない、校舎のあちこちで聞こえてくるクリエイター同士の雑談からは日常的に新しいアイデアが生まれます。定期的にワークショップやマルシェなども行われ、お客様と地域のにぎわいの場にもなります。

[住所] 〒714-0033 笠岡市大島中 2553

[電話] 080-4040-6491

[MAIL] info@uminokousha.com

[WEB] https://uminokousha.com



#### 須浪亨商店

倉敷市茶屋町では古くからイ草の栽培が盛んに行われてきました。主に畳表や花筵が製造されましたが、戦前戦後を中心に「ロク」と呼ばれる短い畳表に使えないイ草を使用した手工芸の文化も同時に発展しました。「いかご」もその1つで、今回作るびんかごは醬油やソースを買いに行くときに瓶を持ち運ぶ為に作られました。私は代々イ草に纏わる仕事を生業としている家に生まれました。父の代で花筵製造の事業は潰えてしまいましたが、物心ついたときから隣で祖母が籠づくりをしていて、機織りの音のする横で私も手を動かしていました。後に私が籠の作り方を教わるときにも、当時聞こえていた機のリズムで身体を動かしました。幼いころからみていたのもあったからか、そんなに苦労せず作ることができました。

[住所] 〒710-1102 倉敷市茶屋町早沖

[WEB] http://maruhyaku-design.com/



#### 立花容器株式会社

創業 106年の立花容器の桶樽技術が、間伐針葉樹材の楽器材としての価値を高めることがわかり、カホンの製造販売をしています。

[住所] 〒 713-8577 倉敷市玉島柏島 7047

[電話] 086-528-2417(代)

[電話] 086-482-0002

[MAIL] seto@spac.co.jp

[WEB] https://www.spac.co.jp/



#### ぬかつくるとこ

「ぬか」は生活のケアを柱として、アートを活用した自分らしい生活をおくることのできる福祉事業所です。「ぬか」という一風変わった名前の由来は、漬け物などを漬けて発酵させる「ぬか床」から来ています。正面から捉えるとひるんでしまうことも、ちょっと角度を変えてみれば、だれも気付けなかった価値が生まれたりする。そういった価値や個々の魅力が「ぬか漬」のように時間をかけてゆっくりと発酵し、社会へ広がって行くことを願って付けました。ぬかで過ごす上で「決まり事」はあまりありません。「好きな時に好きなことをする」。思い立ったが吉日。即興的にいるんなことが起きていきます。そして極力無理をしない。そんなぬかの日常には「音」が不可欠です。バックミュージックとしてスピーカーから音楽が流れていることもあれば、スタッフやぬかびと(利用者)さんが楽器を演奏することもあります。または、日常会話の笑い声。歩行するときの音、キッチンでランチを作るときの音など。音楽の風呂敷(解釈)を少し広げて、一人一人が出す生活音も音楽の一部と捉えてみる。雑多ではあるものの、賑やかで明るいアンサンブルを空間全体が奏でていることもあります。近所を歩く人が、中で何をやっているんだろう?という表情で覗き込むのは、賑やかな笑い声や音楽に誘われているのかもしれません。

[住所] 〒701-0304 都窪郡早島町早島 1465-1

[MAIL] info@nuca.jp [WEB] http://nuca.jp/

## OKAYAMA CULTURE V

「楽しいが見える!」をコンセプトにYouTube公式チャンネル「OKAYAMA CULTURE V -おかやまカルチャー・ヴィ-」を運営。独自に作成する様々 な動画コンテンツや、実演家の皆さんが自ずから撮影した動画を配信する場として広く公開し、県内の様々な文化芸術活動の様子を伝えています。

#### 開始時期 | 2020年

2021年度作成:公開数 | 34本

内容 | 備中国のくらしと音~音・音楽・声・言葉に支えられてきた文化を訪ねて~

- ・水琴窟のある場所(ゆるびの舎、広兼邸、笠岡市立竹喬美術館、頼久寺庭園、旧野﨑家住宅)
- ・"民謡"を聞いてみよう(千屋牛追唄、下津井節、北木島石切唄、備中ござおり唄)
- ・音の記録、音の記憶(シルバースター、木造船作りの音、ミュージックサイレンの秘密)
- ・この音、なんの音?
- ・音が生まれる場所(須浪亨商店、放課後デイサービス「ホハル」)
- ·井原鉄道 乗車音

#### 訪問実験室!

- ・文化芸術が生まれてくる現場 vol.3「自然を取り込む」
- ・文化芸術が生まれてくる現場 vol.4「多彩な表現に対応するための空間」

#### アートマネジメントオンライン研修

- ・結局、AIRって何なの?!
- ・きく・みる・知るから始める!オンラインコンテンツの「可能性」と「作法」



URL https://o-bunren.jp/tv/

#### 訪問実験室!



#### 文化芸術が生まれてくる現場 vol.3「自然を取り込む」

染織の工芸作家の日々の生活の中での仕事のあれこれついてうかがいます。

岡山の身近にありながらも豊かな自然に丁寧に目を向け、そこから得るさまざまな恵みをどのように表現に生かしてい るのか、美しい作品の生まれる秘密や、たゆまぬ努力の源には何があるのか、探ってみたいと思います。

作品の背景や作家の人となりを知ることで、皆様がより一層理解を深めてくださるのではないかと思います。

#### Profile 佐藤堂子

染織家、日本工芸会正会員。岡山市生まれ。女子美術大学短期大学部へ進学しデザインを専攻。卒業後帰郷し、結 婚出産を経て、33歳からほとんど独学で染織を始める。昭和49(1974)年第25回岡山県展に初出品し岡山市長賞 を受賞。県展、日本工芸会中国支部展で入選入賞を重ね、その後、日本工芸会染織展、日本伝統工芸展へと活動 の場を広げる。県展審査員、日本工芸会中国支部常任幹事を務め、岡山の染織工芸の第一人者として活躍。平成29 (2017) 年染織研究会「樹の会」を立ち上げ、後進の指導にもあたる。同年岡山県文化賞受賞。作品は、「縞」に こだわり、主に絹糸を身近な草木で染め、機にかけて織る。

#### 文化芸術が生まれてくる現場 vol.4「多彩な表現に対応するための空間」

シリーズ4回目は、平面・立体・音楽にわたるまで、多彩な表現を行う現代美術家・川埜さんの日々の制作現場を訪 れ、どんな空間や人との関わりの中でそれらは生まれてくるのかを見せていただきます。また、作品づくりに携わる人は、 作品展示のための輸送にはとても神経をつかいますが、川埜さんの緻密でユニークな作品梱包の方法や、それをオリ ジナルで効率よく制作する工房なども合わせてご紹介したいと思います。現在から少しずつ時代を遡っていくような構 成となります。

#### Profile 川 埜龍三

1976年、神戸市生まれ。岡山県笠岡市在住。独学で美術制作を学び、10代の頃よりジャンルや素材に囚われない 多様な作品スタイルと優れた造形力を持っている。作品の世界観を再現する空間演出を得意とし、そのため自ら制作 した音楽と共に作品発表も行う。 インディペンデント・アーティストとして 2008年に岡山県倉敷市に自身のギャラリー 「ラガルト」を開設以降は常設で新旧の作品を公開しながら新しい企画や作品を生み出し続け、既存の価値観に左右 されない独自の芸術活動を続けている。近年は個展での作品発表のほか、パブリックワークとして瀬戸内海を舞台に 全国 2,000人の有志と共同制作した個人企画《犬島の島犬》(2012年)など、特定の地域の歴史を掘り起こし、象 徴的な造形作品と市民を巻き込む制作プロセスでその土地に眠る伝説を可視化する手法をとっている。

# マイニングおかやま

類まれな輝きを放つ宝石やこれから輝く原石を採掘するような感覚で岡山県の文化芸術に関する人・コト・場所を紹介し化学反応を起こしていくサイトを公開。「文化芸術マイニングリレー」「クリエーション再遊記」「文化・芸術・芸事名鑑」3つの切り口を設けて運営しています。

#### 開始時期 | 2022年2月

内容 | 文化芸術マイニングリレー…好きからはじまるリレー形式のインタビュー記事 クリエーション再遊記…岡山県天神山プラザ企画展「天プラ・セレクション」等の活動記録や作家情報 文化・芸術・芸事名鑑…岡山県で活動する表現者の登録型データベース





URL https://www.mining.bunren.jp/

# おかやま文化芸術活動相談窓口

文化芸術活動を行っている個人、団体を対象とした専門の相談窓口を設置。文化芸術活動への取り組み内容や思いなどをしっかり聴き、寄り添いながら、段階に応じたサポートや情報提供などを行いました。

#### 相談・サポート内容

- ・練習場所の提供、紹介
- ・指導者やアーティストの紹介、マッチング
- ・事業相談や計画策定
- •集客計画やチラシ配布で広報サポート
- ・県内外から集めた各種情報の提供
- ・活動に関するお悩み相談
- ・補助金・助成金の活用
- ・新型コロナウイルスによる影響に関する相談 etc.受付件数 | 94件

#### みんなの活動助成金説明会

日時 | 2021年9月19日(日)、10月15日(金)13:30~15:30 受付件数 | 8件



# 文化プログラム (beyond 2020) の認証受付

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知と参画の促進及び、政府が進める文化プログラム「beyond2020プログラム」について、公益社団法人岡山県文化連盟が申請窓口を務めています(認証組織は岡山県)。

#### beyond2020プログラム 認証状況

Def 011410100 117 7 11 11/10								
区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度			
全体(※1)	157	328	266	164	73			
うちアソシエイツ受付分(2017.8.31~)	78	321	257	155	73			
うち県文祭事業	79	153	65	37	32			
うちその他文化連盟申請事業	28	37	26	8	4			

<sup>※1 2022.3.31</sup> 文化庁まとめ+アソシエイツ受付未反映分

#### 東京2020参画プログラム(応援文化オリンピアード) 認証状況

	区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
全位	\$ (%2)	69	64	97	28	0
	うち県事業	2	4	46	0	0
	うち県文祭事業	51	40	40	26	0
	うちその他文化連盟申請事業	16	20	11	2	0

<sup>※2 2021.9.5「</sup>Culture NIPPON」HP掲載情報+文化連盟申請実績 (2021.9.5まで)